



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成 28年 1月 20日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ「ソバダイキイキ」ジッコウイインカイ
 団体名 「ソバでイキイキ」実行委員会
 所在地 [Redacted]
 連絡先 [Redacted]
 フリガナ ススキ モトサブロウ
 代表者氏名 須々木 元三郎 [Redacted]

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
 ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決 <input type="radio"/> イ 地域課題掘り起し <input type="radio"/> ウ 地域計画づくり <input type="radio"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり <input type="radio"/> オ その他
事業名称	耕作放棄地再生、環境保全、及び特産品作り
事業実施区域(小学校区)	牧石小学校区 (牧石、玉柏地区) + 御津小学校区 (草生地区)
事業実施回数	新規 ・ 継続 4回目 (平成25年度下期から)
課題	<p>耕作放棄地の拡大は農業が抱える問題であり、背景には高齢化による地域の限界集落化がある。米作りでの収益は、必要経費がまかなえず、政策的な方針である農地集約も地域の実情に合わない。(段差のある棚田は集積不可)</p> <p>一方、地域の自然環境は、放置竹林の拡大でその景観と環境保全上の課題となっている。ただ、個人所有の竹林は現在利用価値が無く、一切手を入れられることは無い。よそ者、ばか者として、課題解決に挑戦し続ける。</p>
事業の目的・目標	<p>牧石地区は、青ネギや黄ニラという特産品を有する農産地域である。次なる特産品作りを目指しソバ、大麦の六次産業化による新たな特産品作りに挑戦する。また、岡山市はESD推進を継続的に行っている。将来の世代に残すべき自然環境、農地、循環農業をモデル化して実践する。我々が考える持続可能なコミュニティとは「将来の世代の可能性を損なうことなく、それ自体のニーズや願望を満たすことのできるコミュニティ」ということである。</p> <p>既存組織(町内会、婦人会、公民館など)との連携を模索し、「農業体験セミナー」「自産自消・食育セミナー」を実施する。さらに、岡山市の市民農園クラインガルテンでの「蕎麦打ち教室」を継続的に開催し、商品開発、仲間作り、クラインガルテンの活性化に貢献する。</p> <p>将来は、この委員会を発展させるために「農業生産法人」の立ち上げを視野に入れたアメンバー型組織作りを小さく開始する。具体的には、特産品の販売可能性の模索、製粉所事業のノウハウ蓄積等である。</p>

事業の内容	<p>① 事業実施エリアにおいて大麦・ソバを栽培し、「農業体験セミナー」として体験講座を企画・実施する。</p> <p>② 収穫した大麦粉・ソバ粉を使い、「自産自消セミナー」を開催し地元製品の消費拡大の推進に資する。地産地消調理会を開き、多世代参加型のイベントに</p> <p>③ 要望に応じて「放置竹林整備」を冬事業として展開し、竹を使った堆肥作り、無農薬、無化学肥料の「自然におまかせ農」で大麦・ソバ栽培を循環型農業として確立する。併せてカブトムシの幼虫をこどもにプレゼント！</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間農事スケジュールが、ほぼ固まりそれなりの収穫量の目安も立ちだした。特産品作りの課題は製粉に移った。しかし、大麦の販売に関しては、長船の名刀味噌様より仕様と購入の希望を打診されている。 ・「下牧農援隊」のように、自力で農地保全に踏み出す動きが活動エリアでも増える。 ・玉柏の宮本老人会が、小規模ながらソバ作りを始めた。実は、ソバの栽培は軽作業であり、80代の高齢者でも可能である。こうした活動の拡大をどんどん探りたい。
企画などの工夫	<p>食育推進活動として、地元の婦人会メンバーの協力を頂戴し、持続可能なコミュニティ作りの為に、多世代交流の場としての「自産自消・食育セミナー」を多世代交流のばとして位置づけ「将来の世代の可能性を損なうことなく、それ自体のニーズや願望を満たすことのできるコミュニティ」活動として、長く継続できるようイベント企画の種類を増やす。</p> <p>たとえば、「出張蕎麦打ち教室」「大麦粉を使ったケーキ教室」など、地元の産品を加工する楽しさを多くの人々と共有していく。</p>
事業の情報公開	<p>三昧庵ホームページと、各イベント、セミナーをリンクさせネット上で活動を紹介する。また、岡山市が推進しているESD活動として、各種媒体にニュースリリースを適宜配信していく。(当然、市当局に事前監修をいただいての配信となります。)</p>
次年度以降の予定	<p>①次年度以後の活動計画 農業者である須々木委員長は、現在兼業として農業に従事している。本業退職を待って「農業生産法人」の設立を目指す。設立資金については他の理事がすでに出資積み立てをしており、その間、ミニ六次産業としての経験値を蓄積していく。ただ、何年先になるかは本人の都合次第といえる。</p> <p>②資金の確保について <input type="radio"/>次年度も区づくり推進事業を申請する予定 <input type="checkbox"/> (5) 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 <input type="checkbox"/>資金確保の具体的な方策：NPO 法人日本素食において、2名の理事が農業生産法人設立に向けての出資金積み立てを開始している。</p>
その他PRしたい点	<p>やはり学区区よりも規模、単位町内会等で申請される場合は、今後どのように学区等への広がりを広げて、何かともお書きください。</p>

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
岡山市補助金	77,000	217,000	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	78,680	217,500	
参加者負担金			
協賛金			
寄付、他収入			
計	155,680	434,500	

◆ 支 出

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
①消耗品費	35,300	74,500	プリンターインク等
②食料費	7,500	8,000	お茶代
③燃料費	5,000	30,000	農機具燃料費
④通信運搬費	10,500	17,000	案内状等
⑤広告料	3,380	50,000	リンクページ作成代
⑥使用料	44,000	80,000	クラインガルテン食堂
⑦原材料費	24,000	50,000	種代・食育セミナー
⑧委託料	26,000	80,000	製粉委託費
⑨報償費	0	45,000	醸せ師講師料
計	155,680	434,500	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	○希望しない
-----------	------	--------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。

事業スケジュール

本園を襲った反省会も含めてご記入ください。日程が決定した場合はご記入ください。

月日	活動内容
4月	ソバでイキイキ実行委員会新年度打ち合わせ。 大麦・ソバの製粉関係各社の情報収集。 大麦刈り取りに関する生育状況の確認と作業段取りの決定。
5月	牧石園場及び草生園場の大麦収穫。 大麦乾燥工程後の脱穀、及び製粉テスト。 大麦粉利用食品の試作及び評価。
6月	夏休み「ソバの種まき農業イベント」に関する関係各所との打ち合わせ。 公民館便りへの参加募集要項決定。
7月	大麦利用促進試作評価。 「自産自消セミナー」の内容決定。 園場整備開始。
8月	ソバの秋播きに向けた草刈作業の開始。 トラクター掛け作業の開始。 「夏休みソバの種まきセミナー」「大麦粉を使った自産自消セミナー」開催。
9月	8月セミナーの反省会。 収穫体験イベントの企画会議。 苗の土寄せ作業開始。
10月	ソバの収穫体験セミナーの準備 親子蕎麦打ち体験セミナーの開催準備 園場周辺の草刈作業
11月	秋ソバの収穫体験セミナーの開催 はぜ干し作業開始 脱穀作業開始 唐箕掛け作業の開始
12月	年度内活動報告書の作成・総括理事会開催 来期活動実施場所の検討・決定 竹林整備事業開始&竹チップ堆肥の散布 大麦粉ソバ粉を使った「自産自消セミナー」開催打ち合わせ
1月	「自産自消セミナー」共催団体との打ち合わせ 町内会、婦人会、子ども会等へのチラシ配布 新年度活動方針の決定
2月	大麦粉ソバ粉を使った「自産自消セミナー」開催
3月	自産自消セミナーの反省会 市役所への事業結果の報告